

## 腹

ある人が言った。「私の所の校長は、他人の虫歯を針でほじくる人です。虫歯のよ  
うな、欠点を持った私であることは十分知っています。その私の痛い虫歯をほじくら  
れると、ますます神経がいらいらするばかりです。そうしないで、静かに虫歯を覆つて  
くれたらと思います。」

考えさせる話ではある。

誰にでも痛い虫歯はある。虫歯を何かで覆つてやらないで、ほじくつて、神経をい  
らいらさせて、さらにこの人物はつまらないと棄てる。腹のないやり方である。

じつと私自身を省みる。

人間があまり大きな欠点や、悪癖を持つと、せつかく辛苦して築きあげた自分の仕  
事を、同時に自分がこわしてゆくものである。

自分の欠点や、悪癖をぢつと凝視<sup>みつ</sup>めてゆくことは大切なことである。

村のために十年も働いて来ながら、少しも村から認められない。なぜだらうと、近  
所によつて見ると、人を頭からこきおろす人である。口があつて腹がない。

いい習慣や、癖はなかくつき難いが、悪い癖はすぐつき易い。古の聖者たちが、こ  
うした小さく見えることに気をつけられた意味がわかつて来る。

悪い心の動くがままに行つた後には、必ず、恐ろしい悔いと、良心の呵責に苦しま  
ねばならない。

悪い心をじつと、見つめつつ戦い勝つた時には、言い知れぬよろこびがある。

腹とは、内と外との悪に動かされない腹である。

母が「高い狭い道をゆかないで、低い広い道を歩むことだ。」と言つた。

高く狭ければ難行道であり、広ければ易行道である。

確かに、広い道は低い所にある。

高い所を得意になつていると、必ず墮ちて大怪我をする。

大地の上を歩いてさえ、時には怪我をするのだから。

私があまりにも「安心の出来る人物」を求めるが、

私が誰にでも安心して頂ける人物になりたい。

古歌に曰く、

「心こそ、心迷はす心なり、心に心、心ゆるすな。」

食物を食べないで、感情を食べ、人間が動かないで感情が動く。

人間は感情の動物であるが故に、特に感情を養わねばならない。

高等教育を受けた人でも、いざ生活となると、お話にならぬほど惨めなのは、多く  
は正しい感情が養つてない場合が多い。

感情で逆立ちすると、自分と、自分に都合のいい人物だけが、善人で賢く見える。  
感情で動かないで、腹で動くことが大切である。

親鸞聖人は、人間の心を知りつくしつつ、如来の心にものを言わしてお生きになつた。如来の金剛心が、聖人の腹であった。  
人間にならうと思へば、腹を練ることである。  
腹を造ることが宗教である。